

# 平成29年度 学校評価シート

和歌山県立新宮高等学校（全日制） 校長 前田 成穂 印

目指す学校像	・知・徳・体 バランスがとれた人間形成
・	・地域社会に積極的に貢献する人材、次世代の日本社会・国際社会で活躍できるリーダーの育成
育てたい生徒像	・良き伝統の継承と新しい伝統の創造

本年度の重点目標	1 学びの場の充実による教育の質的向上
	2 生徒の教育課題克服
	3 教職員の資質向上
	4 地域共育コミュニティの形成推進による規範意識の涵養と良き社会人の育成

達成度	A 十分に達成した (80%以上)
	B 概ね達成した (60%以上)
	C あまり十分でない (40%以上)
	D 不十分である (40%未満)

学校評価の結果と改善方策の公表の方法
平成30年度の振学会総会や学校運営協議会等において、保護者や学校関係者に結果を知らせ公表していく。

自己評価					年度評価		
重点目標					年度評価		
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	達成	次年度への課題と改善方策
1	多様な生徒に対応するため、類型別クラス編成とともに進路希望に対応した教育課程を編成している。また、学力向上はもとより、確かな学力の定着を重視した授業展開を行っている。 課題は、生徒の学力・学習意欲の差が大きい中で、生徒自らが主体的・意欲的に学習する課題探究能力の育成である。	①「わかる授業」、「力のつく授業」が実践されているか。 ②学習の習慣化への取組がなされているか。 ③生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高める観点に立って、学習指導が行われているか。 ④「総合的な学習の時間」「朝の読書」が生徒の主体的な学習活動に結びついているか。	①授業時間の確保と授業規律の保持。 ②課題テストや小テストの実施などにより家庭学習の充実と確かな学力の定着を図る。 ③一人ひとりの能力や個性に応じた学習指導や進路指導の実践。日常補習や長期休業中の補習の充実。 ④課題探究能力の養成と読書感想文の取組推進。	・年間授業計画の100%実施。 ・チャイム着席の実践。 ・一人ひとりの生徒の成績分析による成果と課題の確認。 ・小テストや課題テストの実施。 ・一人ひとりの進路希望に応じた指導の実施。 ・計画的な補習の実施。 ・体験的な学習や問題解決的な学習活動の実施。	①出張等の場合の授業振替が積極的に行われ、課題となる授業は昨年度よりかなり減少した。 ②授業に取り組む態度は良好であるが、自主的な学習習慣の定着は十分ではない。 ③日常補習や長期休業中の補習については充分に行われている。 ④「総合的な学習の時間」の取組は、生徒の主体的な活動の醸成に役立っている。	B	次年度も授業時間の確保に取り組みたい。また、自主的な学習習慣の定着、課題探究能力の育成のための指導を行いたい。 補習については、内容についての再検討を行いたい。 「総合的な学習の時間」については、特に研修旅行との連携に関して見直したい。
2	生徒の多様な進路希望に対応した進路指導が行われている。課題は、一人ひとりの生徒の能力を十分に引き出せていないことである。この課題を克服するために、職業観の育成や生き方を考える機会が必要であり、ガイダンス機能やキャリア教育の推進・充実により、主体的に進路選択する力を育成する。	①一人ひとりの生徒への適切な進路指導がなされているか。 ②生徒・保護者へ進路情報の提供が適切に行われているか。 ③一人ひとりの生徒の成績等の情報が進路指導に生かされているか。 ④キャリア教育が計画的に実践されているか。	①進路検討会の実施により、生徒の状況を学年全体で把握し、適切な指導に反映させる。 ②個別の進路相談（面談）と生徒、保護者との三者面談の実施。 ③進路便りや学年便りの定期的発行。進路講演会の実施。日常補習、長期休業中の補習や外部講師による進路講演の実施。 ④進路ガイダンス、進路講演会、キャリアゼミナールの実施。	・進路指導年間計画の着実な実施と成果の確認。 ・進路検討会の定期的な実施。 ・個別面談及び三者面談を年間5回以上実施。 ・生徒及び保護者へのタイムリーな情報提供。 ・保護者対象の進路講演会への参加者数の増加。 ・進路指導年間計画の完全実施と効果の検証。	①進路検討会を随時行い、各生徒に応じた適切な進路指導の取組がなされている。 ②各学年別進路便りの発行、進路講演会の実施等により、情報の提供が適切に行われている。 ④進路講演会やキャリアゼミナール等の意欲向上を狙いとするキャリア教育の観点での取組がなされている。	B	今年度は国公立大学合格者数が33名であった。担任を中心に細やかな指導を行った結果、入学時の学力を伸ばすことができた。来年度も生徒の実態を正確に把握し、国公立大学後期試験まで粘り強く進路指導に取り組んでいきたい。
3	若手教員の指導力の向上が本校の大きな課題ととらえ、若手教員を巻き込んだ学校全体の組織的実践力の強化に努めている。若手・中堅教員には学校運営に積極的に係わらせるとともに、OJTを推進することで実践的指導力向上に努めている。 課題は、更なる教員定数減に備えて、より一層の校務分掌の整備を行う必要がある。	①65分授業に応じた指導方法と評価の工夫がなされているか。 ②若手教員の資質向上を中心とした校務分掌業務の活性化ができていか。 ③思考力・判断力・表現力を育む活動ができていか。 ④研修は充実しているか。	①教科等教育法研究事業による授業充実と授業改善。 ②若手教員へのOJTの実施。 ③問題解決的な学習活動の実施。 ④現職教育の定期的な実施。積極的な研修への参加。	・教科等教育法研究事業に基づく、各教科年1回の研究授業の実施と公開授業の実施。 ・現職教育を年間10回以上実施。 ・総合的な学習の時間・LHR・授業が融合した学習活動の実施。 ・「特別支援教育」、「緊急時の対応」、「情報セキュリティ」研修の実施。	①全ての教科が年1回の研究授業を実施した。 ②中堅教員を各分掌に配置し、業務の活性化を図った。 ④特別支援教育、いじめ防止対策、緊急時対応等に関する現職教育を実施し、若手教員の資質向上に努めた。また情報セキュリティ研修は随時実施した。	B	次年度もICTの活用、アクティブラーニングを意識した研究授業の実施や教師力向上のための現職教育の取り組みを継続していきたい。 現職教育については、特に高大接続改革に関する内容を充実させたい。
4	家庭・地域との連携強化することで、多様化する教育課題を共有し、その解決に取り組んでいる。規範意識、品位・品格を重んじる生徒指導が定着している。 課題としては、更に積極的に地域の教育力を生かすように努め、グローバル人材の育成、ふるさと教育・人権教育・道徳教育・防災教育等の推進につなげていく必要がある。またコミュニティスクール導入の検討を行う。	①保護者・地域との連携がとれているか。 ②全教員による共通理解と指導が徹底されているか。 ③異文化理解、実践的コミュニケーション能力の育成、郷土の歴史・文化の理解、人権問題の理解、防災教育、等が保護者・地域との連携で取り組まれているか。	①学校行事等とおして、地域との連携を深める。 ②校門・街頭指導の実施。列車の乗車マナーの指導の実施。服装・頭髪の個別指導の徹底。交通安全指導の徹底。薬物乱用防止指導の実施。校内美化の徹底。 ③熊野古道ロングハイキングの実施。姉妹校あるいは地元自治体の姉妹都市などとの国際交流の実施。	・保護者授業参観の実施。 ・学校行事の地域への広報活動。 ・保護者・生徒・職員による「新高グリーン作戦」の実施。 ・長期休暇中の諸注意の配布。 ・校内巡視の実施。 ・関係諸機関との連携。 ・清掃の徹底。 ・体験型学習の実施。 ・国際交流事業に参加する生徒数の増加。	①彩雲祭・体育祭等の学校行事では、振学会と連携し充実させることができた。また新宮市や地域住民と連携して高校生徒防災スクールを行った。熊野古道ロングハイキングは、1・2学年で実施した。 ②全教員による指導の徹底と生徒の自覚から、今年度も落ち着いた学習環境を保つことができた。 ③地域における行事には、文化クラブや有志ボランティアが積極的に参加した。	B	生徒の自己肯定感を醸成することを通して、安定した学習環境を継続する。 学校行事や地域の催し物に積極的に参加することを通して、振学会及び地域とのより一層の連携を目標とする。

学校関係者評価
平成30年3月2日 実施
学校関係者からの意見・要望・評価等
学校評議員会において以下の意見が出された。 ・今年度の大学入試センター試験で、満点をとった生徒は公立高校の生徒で、しかも陸上競技部に所属していたと言う。やればできるということ。センター試験の問題を見ても読解力が問われる傾向が強くなっている。本校ではそれが弱い生徒が多いのではないですか。 ・地域間の格差問題が心配。スポーツでもかつては紀南地区も活躍していたが、今では紀北に占められている。これは良くない傾向である。 先輩たちの行動を学び、卒にはまらない熊野人の気質を新宮高校生にも理解してもらいたい。 ・施設の改善が必要であろう。トイレも古い。全面改修の必要もあるのではないか。